

陽の里

発行 平成27年4月1日



社会福祉法人 新生会
総合ケアセンター サンビレッジ
〒503-2417 岐阜県揖斐郡池田町本郷1501番地
TEL (0585) 45-5545(代)
URL <http://www.sun-village.jp/>

No.123

テーマ 「軌跡をふりかえる」



▶チューリップの花でサンビレッジのシンボルマークをつくりました

「軌跡を振り返る」



社会福祉法人 新生会

理事長 今村 寧

介護保険も9年ぶりのマイナス改定となりました。その理由が社会福祉法人の在り方に対し政府が疑問を投げかけていることが要因とのこと。これを機に社会福祉法人制度の改革がさらに加速していくことが予想されます。新生会もその在り方を再確認する必要が迫られています。

新生会は今年で40年目を迎えました。定員100名のサンビレッジ新生苑から出発し、拠点も池田・大垣・岐阜・瑞穂と増えて、提供できるサービスも挙げるのに時間がかかるまでに多くなりました。規模が大きくなり時を経るほどに、新生会を立ち上げた時の思いや本来あるべき法人の在り方、サービス提供の基本など、薄まることが懸念されます。私自身も今一度気持ちを新たにし、新生会の本来の在り方や今までの軌跡をじっくりと振り返ることとします。基本に立ち返りつつ大切なものを見逃さないように自分自身を含め法人の基礎を強固なものとし、制度によって右往左往しない地域に根付いた法人を作り上げていきます。

事務長 森 美春

昭和51年4月にサンビレッジ新
生苑事業所を開設してから平成
27年度で早40年目に入ります。
10の事業所において38の介護サ
ービスを、専門学校3学科にて医
療介護の専門職養成を展開する
までになりました。職員数も開
設当初34人でしたが、現在59
6人が日夜業務に携わっていま
す。

近年の介護職員の雇用は一昔に
比べると困難な状況です。国も人
材確保・育成策を講じてくれて
おりますが、当法人も独自の人
材育成プラン等にて職員のスキル
アップやサービスの質の向上に繋
がるよう努めています。

27年度は、そんな介護現場を
事務職がどのように考え行動す
ることで介護職員等の手助けがで
き、サービスの質が保たれるか、
その実践の年と考えます。机上で
の業務が多い職種ですが、現場に
近い業務を心がけ、行動していく
所存です。

生活課題に対して、提供するサ
ービスを通じて解決に資するよう、
お互いの専門性や立場を認め合
いながら進めて参ります。

瑞穂管理者 玉城栄之助

「もやいの家瑞穂」「サンビレ
ッジ瑞穂」「サンビレッジほづみ駅
前」の3拠点は、限られた社会
資源を丁寧に活かしながら、進み
続ける超高齢社会と介護人材の
不足に対応できるハード・ソフト
の構築を目指し、全国に唯一のユ
ニット環境（ハード）を整備しま
した。

一方、ソフトは、人材育成を始
め、地域・行政との連携を進め、
医療・介護・住まい・予防・生活
支援サービスが身近な地域で包
括的に提供される仕組み造りを
実践しています。

拠点開設から5年目を迎える
本年度は、これまでの法人の軌跡
を振り返り、歩みの中で積み重
ねてきた思いをスタッフ一人ひと
りと共有し、介護の専門性を語
れる力と更なる質の向上に努めて
いきたいと思えます。

サンビレッジ新生苑 管理者

馬淵規嘉

サンビレッジ新生苑が開設して
来年で40周年を迎えます。新生
苑では地域や利用者のニーズに
応じたサービスを、現場から考え
創りだし成長してきました。当
初100床の特養から開始、数々
の改修・増築をくり返し、現在
では毎日250名の地域のお年
寄りが、新生苑の中で暮らし約
180名の職員が支えています。

昨年度も、改修工事を行いました。
約40年を迎える設備は定期
的な更新を必要とします。同時
に中でのケアも新しい介護スタッ
フの育成と共に成長を目指しま
す。今年度、新生苑では「1人
1担当制」のシステムを見直し、
受け持ち利用者・家族の方との
積極的なコミュニケーションによ

新年度を迎えるにあたって ～選ばれるサービスを目指して～



上段 左より桑原・玉城・馬淵
下段 左より田口・川瀬・廣瀬・小林・森

岐阜管理者 川瀬由起子

岐阜シティ・タワー43は今年で
8年目を迎えます。振り返ると、
開設当初は事業運営で無我夢中
で周りをみる余裕もない状態でし
た。しかし、多世代交流支援事業・
食事提供という取り組みを通し
て、住民と一緒に岐阜シティ・タ
ワー43の街づくりができるよう
になりました。スローガンでもある
「赤ちゃんから高齢者が最期まで
安心して暮らせる街づくり」を
目指して、更なる一歩を歩み始め
たと実感しております。このよう
に、サンビレッジ岐阜は様々な取
り組みを通して、事業所という
狭い視野から地域を捉える広い
視野が持てるように徐々に成長
しております。

勤続5年以上を迎える職員が
多くなり、さらなる飛躍を目指

り関係づくりを図り、チームの一
員として責任ある役割を果たし
ながらケアを進めることを目指し
ます。一人一人の職員が今以上に
成長し、地域の皆さまに選ばれ
るサービスを目指します。

宮路管理者 廣瀬京子

新生会では、ここ数年の新規事
業開設と共に新たに大勢の仲間が
増え、宮路でも新しい面々が活
躍しています。世間では経験の有
無と介護の質はリンクするものと
捉えられがちですが、経験のみで
質は語られるものではありません。
高くアンテナを張りながら観
察をし、その結果を仲間と共有
し、本人を支援することが大切
だと捉えています。

同じ目標を目指せる新しい仲
間が増えたことを喜びながら、ベ
テラン勢も新しい風を受けつつ初

し、スタッフ一人一人が考え、自
分で行動、そして責任が果たせ
ることを目標に事業の運営、街
づくりをしていきます。

フーズ管理者 田口友子

昨今、食業界においては産地
偽装や異物混入問題など食の安
全性が社会問題として大きく問
われています。食を預かるものと
して、その責任を痛感すると共
に、日頃の衛生管理など現状を一
から見直しています。「自らアン
テナを広く張り情報収集に努め、
何をすべきか考え、迅速に行動」
が今年度の目標です。常にその先
を見つめながら今、確実にできる
ことを実行。皆様からの「あり
がとう、おいしかったよ」の声を
励みに多くの「おいしい」を集め
るべく、人材育成とチームの基礎
固めをしていきます。又、地産

心に返り、自らの責任と役割を再
確認していきます。そして理念を
継承し、一つひとつの支援の根拠
を確認し合いながら、支援の質の
向上に努めていきます。どんな時
も利用者の立場に立った支援がで
きるよう、仲間を信じて任せ、
互いの成長を喜び合えるチーム作
りに努めていきたいと思えます。

大垣・白鳥管理者 桑原 陽

今年度、サンビレッジ大垣は10
年目、リハビリセンター白鳥は4
年目を迎えます。

サンビレッジ大垣は地域の認知
症ケア拠点を目標に、「介護の質
の向上」、「医療との連携」、「地
域住民への啓蒙・啓発」を3つの
柱に推進しています。中長期計
画の2年目を迎える今年度もこ
の3本の柱を軸にスタッフ、関係
者と共に協働してまいります。

リハビリセンター白鳥では開設
後の3年間、理念に基づいた実
践を担うべく、丁寧に基本的知
識・技術を修得し、チームで高
め合う風土、雰囲気創りに尽力
してきました。今年度はその基
盤に立ちながら、利用者個々の

地消の安心食材の導入にも積極
的に取り組みます。丹精込めて
作られた野菜や米等、余分にあ
りましたら、是非ご一報いただき
ますようお願いいたします。

サンビレッジ国際医療福祉専門学校

学校長 小林 月子

サンビ校は、教職員一同、「世
の中の役に立つ着実な力と豊かな
人間性をもつ専門職の養成」に
力を尽くしたい、と願っています。
具体的には、次の4点の実現に
向けて努力します。

- ① チーム力の強化：教職員一同
が一つのチームとなって学生に
対応する
- ② 一貫した教育の実現：学生募
集、入学試験、入学前教育、
入学後教育を通し、一貫して、
一人ひとりの学生を育てる
- ③ 教員のアセスメント力の向上
：教員全員がアセスメント力
を高める。アセスメントの視
点を定める
- ④ 連携力を高める：新生会をは
じめとする各施設、家庭、高
校、地域社会との連携を強化
し、継続する

vol.9
「サンビレッジの仲間たち」

アクセスメント 現在進行形

サンビレッジケアマネジメントセンターⅡ リーダー 矢野 紀子

私は、ケアマネジャーの資格をホームヘルパーの実務経験を経て取得しました。ヘルパーとして訪問したお宅で、「ここが改善されたいのに」と感じることもあり、ケアマネだったら制度でいろいろ支援できると考えたからです。

新生会はさまざまなサービスが充実しています。けれどケアマネである私のケアプランは、その方の「こういう暮らしがしたい」という思いに近づいていきませんでした。ヘルパーとして働いていた頃「さっぱりしたねえ」「ああこれでお医者さんの前でシャツも脱げるわ」と会話した時の方が寄り添えていたような気がしたのでした。

今、新生メディカル神戸ステーションに身を置いて仕事をしています。ここに仕事を終えたヘルパーの人たちが報告に立ち寄ります。その会話は、まさに、その時のお宅で起きているその方のアクセスメント現在進行形です。

ケアマネになった私はその方の課題探しにばかり目を向けていました。血圧が高いから一度受診した方がいい。ひとりでは行けないから通院介助だ、介護タクシーだ、と。この方も病院に行きたいと思っていたのです。それには匂うような身体では行けない。身体を清潔にして洗濯したシャツを着ていきたいと。

まず必要なのは病院へ行く手段ではなかったのです。これでは行けないと思っているこの方の思いに込めることだったのです。

私は今日も、ヘルパーのキャッチした、その時のその思いを見逃さないアクセスメントを聞きながら、関わる人たちとともにその方の「こうしたい」を支えるケアマネジャーでありたいと感じています。



いつでもお気軽にお越し下さい

トピックス

一緒に頑張りよう!!

当法人では毎年1月に法人全体の職員の親睦を図ることを目的に、新年会が行われます。今年は、155人余りの職員が100円玉を握りしめ参加をしました。

なぜ、100円玉を握りしめて・・・。

これが、新生会恒例の今年1年の運試し100円じゃんけんゲーム参加費なのです。ステージに一人の職員が立ち全員で♪じゃんけんぽん♪負けた人と、あいこの人は次々に座り、最後に残ったその人がまさに今年の運を掴み取り、今年一年素敵な運に恵まれることとなるのです。

運の会のメンバーになって、結婚が決まった人、子どもに恵まれた人など幸せの聲が次々に聞こえてきています。

そして、毎年集まった“じゃんけんゲーム参加費”は東日本大震災の復興等に役立てたいとの願いから、法人内行事等で得た募金と合わせて東北の被災地へ送っています。

ライフサポーターに注目!



ライフサポート事業とは、買い物や通院、清掃などでお困りの高齢者の方々の在宅生活を継続・支援する地域住民の活動です。介護保険では対応できない様々なニーズに対して、サポーターさん達（平均年齢69歳!）が日々奮闘しています。この事業は平成19年度、大垣市から始まりました。現在では、垂井町、池田町、大野町へと広がっています。最近では、NHKの「ハートネットTV」、「週刊ニュース深読み」に取り上げられるなど、全国的にも注目を浴びる事業となっています。

日本財団福祉車両助成事業完了のお知らせ



この度、日本財団より平成26年度福祉車両助成金の交付を受けて、下記の事業を完了致しました。ここに事業完了の報告を申し上げますと共に、日本財団をはじめ、ご協力を賜りました関係者の皆様に謹んで感謝の意を表します。

社会福祉法人 新生会 理事長 今村 寧

【事業名】福祉車両事業 【事業内容】ヘルパー車 ホンダ N-WGN Gタイプ 【事業費総額】878,980円

【補助金額】450,000円 【施設名称】訪問看護ステーション サンビレッジ新生苑

【施設所在地】岐阜県揖斐郡池田町本郷1501番地 【完了年月日】平成27年3月31日

～福祉の現場に身を置いて～

シリーズ
第1弾

大人の学校「ライフサポートつつみ」



岐阜大学名誉教授
サンビレッジ国際
医療福祉専門学校校長

小林 月子

皆さんはライフサポーターと聞いて、まさきにどんなイメージを思い浮かべますか？「団塊の世代が生活支援にがんばっている」「介護保険で利用できないサービスを提供している」などでしょう。どれも、サポーターさんたちが生き生きと「活動」している姿です。ところが、サポーターさんを形容するもっとピッタリする言葉がある、と私はひそかに思っています。それは「大人の学校を運営する人たち」というものです。サポーターさんたちは、「活動する集団」ですが、それと同じかそれ以上に「学ぶ集団」「考え話し合う集団」なのです。

ここで簡単に、サポート活動を紹介しましょう。実際にサポート活動が始まったのは2008年11月からで、月間サービス提供時間約10時間から出発しました。介護保険外サービスを担える住民を育成しようという国の補助事業が出发点でした。最初は、まったくの素人だった住民さんが、ケアマネ等の介護のプロから、対人援助について約5日間の研修・実習をみっちり受けてサポーターになられました。以来、多様なサービスを提供し今日に至っています。掃除、買い物、調理、通院介助、草とりなどが主な活動です。大垣にある「ライフサポートつつみ」に限って言えば、2015年1月現在で、サポーター、利用者ともに約90名です。ここ

2年間はコンスタントに月間利用時間数200時間を突破し、2014年には、300時間を超えた月もありました。サポーターさんの平均年齢は男性70歳、女性68歳です。

どうしてライフサポート活動がこんなに実績を伸ばしているのでしょうか？その秘密は一にも二にも「一人ひとりが、深く考え学び、意見を出し合う」「皆で納得してルールを決める」というサポーターさんたちの会の運営の仕方にある、と思います。たとえば、この1月に「つつみ」で開かれた「コーディネーター養成講座」では、歴代のコーディネーターから「コーディネート」の極意の一部が披露されました。たとえば、利用者さん宅を最初に訪問したら「まず3分(できれば5分)はしっかり話を聞く」「傾聴する・共感する」こと。これを初めにしっかりやればその後の活動・人間関係がスムーズになる、とか。また「事前の書類作成なんか面倒だ、面倒なことを言わずにすぐサポートしてくれ」と手続きをないがしろにされる住人には、その思いや訴えには対等に「こちらの手続きに従って必要なサービスを提供するのがサポーターのやりかたです」と優しく毅然と対応する、とか。目の前にそうした対応の情景がくっきり浮かんでいきますね。現場をふまえた具体的な発言に、受講生一同深く納得し、先輩コーディネーターを思わず尊敬のまなざしで見つめたのでした。目標を共有し一緒に学び合える仲間がいる、相談できる先輩やケアマネがいる、現場がある、これらがこの活動にエネルギーを供給しています。